

## 図書館だより

66

## 図書館だよりが新しくなりました！

田無市と保谷市が合併して西東京市になってから17年目。65号まで号を重ねた図書館だよりは、今回大きくリニューアルします(号数は66号から続きます)。新しい図書館だよりではこんなことを大切にしていきます。

## 多くの人に読みやすく

年齢・性別・国籍…さまざまな方が日々利用するのが図書館だから、図書館だよりも多くの人を読みやすいと思えるものに。これまでの図書館だよりと比べて、文字のサイズはひとまわり大きくなりました。書体は、弱視やディスレクシア(読み書き障がい)の方にもわかりやすいものを。お子さんや日本語以外が母語の方にも伝わるように、簡潔で易しい言葉を選ぶように心がけます。難しい漢字にはなるべくふりがなを。ついつい出てしまう図書館の専門用語には気をつけて…。読む人のことを考えた紙面にします。



リニューアル前の図書館だより

## 図書館は面白い、が伝わるように

今回からカラーになって、絵や写真をよりわかりやすく伝えられるようになりました。市内小学生のアート作品や利用者エッセイ「わたしと図書館」に加えて、みなさまのイチオシ本を教えてくださいコーナー「読む？読む！」が新登場。また、真ん中のページ1枚だけを集めていくと、地域の歴史をひもとく「にんにん西東京」がシリーズで集められるしかけになっています。

行事の報告や本棚のリニューアルなどの見える取り組みはもちろん、なかなか伝わりづらい日々の取り組みや図書館の方針もお伝えしていきます。



タイトルのデザインでも けんけんがくがく

## おまけ 昔の図書館だより

図書館だよりのバックナンバーは、地域・行政資料室にて閲覧できます。また田無市、保谷市時代の図書館だよりも保管しています。



★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

# 平成29年度図書館事業計画

今年度の図書館が力を入れていく事業の中から、いくつか紹介します。

- 成人サービスの推進 生活課題・地域課題を解決する上で必要な情報の提供に努めます。特に、29年度は、法律情報の充実に努めてまいります。
- 児童サービスの推進 「はじめまして～赤ちゃんにおくる絵本30冊」を市立保育園や児童館以外にも新たに私立保育園や幼稚園などに閲覧用に配布して、活用について働きかけをしてまいります。
- ハンディキャップサービスの推進 市民ボランティアを活用した宅配サービスを開始します。
- 子育て支援事業の推進 絵本と子育て事業のフォロー事業として、3歳児も対象として事業を拡大してまいります。

☆図書館協議会委員が交代しました。任期は平成31年4月30日までです。

図書館協議会とは、図書館法に基づき、公立図書館の運営について館長の諮問を受けたり、館長に意見を述べる機関です。委員の任命基準、定数、任期、その他図書館協議会に関する必要な事項は、条例、規則で定めています。

区分	氏名
学校教育の関係者	清水 宣宏
	東山 信彦
社会教育の関係者	西村久美子
	山口 英子
	増田 律子
	山辺真理子
家庭教育の関係者	鈴木 綾
学識経験のある者	山村 基毅
	小西 和信
	藤澤 和男

## 読む？ 読む！

このコーナーでは、誰かに勧めたい一冊を、さまざまなテーマで募集します。今回のテーマは

### 思わず“ジャケ借り”?! ～本棚で出会ったあの一冊～

図書館で本棚を眺めていた時、本の「デザイン」や「タイトル」に惹かれて、思わず手に取ってしまった…そんな経験はありませんか？

皆さんが、本の中身より外見！で借りてしまった“ジャケ借り”の一冊、教えてください！そのジャケットに惹かれたポイント、読んでみての感想、本にまつわるエピソードなどなど、募集します。お寄せいただいた本のコラムは、選考の上、次号「図書館だより67号」より、紙面にてご紹介します。たくさんのご応募をお待ちしています！！

#### 【投稿例】

「あなただけの巻物」？巻物って自分で作れるものなの？表紙の巻物が立派で、こんなの作れるの～と思わず手に取りました。

「あなただけの巻物・折り本づくり」  
数田夏秋著／日貿出版



#### 募集要項

- (1) テーマ: 思わず“ジャケ借り”～本棚で出会ったあの一冊～
- (2) 応募期間: 平成29年6月16日(金)～12月28日(木)
- (3) 応募方法: ア メール(lib-uketsuke@city.nishitokyo.lg.jp)  
件名は「図書館だより」としてください。

イ 来館(原稿(自由書式)を持参)

- ①本の題名 ②著者 ③本のコラム(150文字以内)
- ④氏名(ペンネーム可)

★①～④を明記の上、アカイいずれかの方法で、お一人様5作品までとします。

※応募原稿はお返ししません。

※選考結果はお知らせしません。採用作品(コラム)は、「図書館だより」紙面にて掲載します。

## 中央 図書館



西武新宿線田無駅南口から徒歩3分、西東京市役所隣にある中央図書館です。大学生活や就職活動に関する本などを集めた若者向け「青年期コーナー」や、家庭の医学や薬などに関する資料を集めた「健康・医療情報コーナー」があります。こちらは医療関係の雑誌や医療機関やNPOが発行する小冊子なども揃えており、より最新の情報をご提供します。

写真は中央図書館のとある閲覧席です。窓際にあり、市役所の中庭の緑が望める気持ちのいい席です。ぜひ座って読書をお楽しみ下さい。

# わがまち ライブラリー

西東京市には6つの図書館があります。  
特色の異なるそれぞれの図書館を、  
2号にわけてご紹介します。

## 芝久保 図書館



多摩六都科学館とけやき小学校近くに位置する芝久保図書館は、小舞台のようなおはなしコーナーが特徴的です。西東京市の図書館では一番小さな図書館ですが、小学校や児童館に近いこともあり、隣接する芝久保公民館と合わせ、子どもたちの利用も盛んです。

近隣の幼稚園からも団体で来館いただき、図書館司書による『図書館の時間』で絵本の読み聞かせを楽しんでもらっています。

## 柳沢 図書館



日中は大きなガラスの窓越しに日光が降り注ぎ、明るく穏やかな雰囲気の中、柳沢図書館。

シニア支援のコーナーには、50代以上の方を対象とした本を充実させています。健康・生きがい・趣味・老後設計・介護など、実用書から新しく始める趣味の本まで、身近なテーマの本をゆったりと選ぶことができます。

# にんにんにん西東京

## 第16回 「古地図で見る西東京市 旧保谷市編」

江戸時代の保谷は、上保谷・下保谷・上保谷新田の三村に分かれていました。明治維新により、明治元年（1868）7月「府藩県三治制」が定められ、それまでの代官による支配から受け継がれて品川県に編入されました。村絵図には小字ごとに屋敷と品等別畠面積が書き込まれていて、当時の様子を偲ぶことができます。



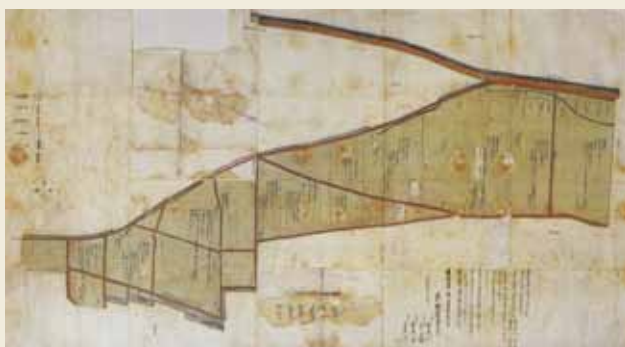
### ① 上保谷



### ② 下保谷



### ③ 上保谷新田



『保谷史 通史編2 古代・中世・近世』口絵より

① 『明治2年9月武蔵国新座郡上保谷村絵図』  
（保谷市教育委員会発行）

上保谷は現在の、柳沢（一部を除く）、東伏見（一部を除く）、富士町、保谷町、中町、泉町、住吉町（一部を除く）、ひばりが丘北（一部を除く）にあたります。

当時の家数は260軒、人数1,079人。村の北部に新川、南部には川沿いに僅かに水田がある石神井川が流れています。台地上の畑には主食の大麥が栽培されていました。榛名神社、宝晃院、宝珠院、如意輪寺、東禅寺などが描かれています。

② 『明治2年9月武蔵国新座郡下保谷村図』  
（保谷市教育委員会発行）

下保谷は現在の、東町、栄町、下保谷、北町、住吉町の一部、ひばりが丘北の一部にあたります。

農民の居宅、道路、川（白子川源流）、橋、塚、馬捨場などが描かれています。余白には下保谷村全体の高反別と家数を集計しています。

③ 『明治2年9月 新座郡上保谷新田絵図』  
（保谷市教育委員会発行）

上保谷新田は現在の、新町と東伏見の一部、柳沢の一部にあたります。上保谷村の持添新田として享保年間、平井伊左衛門が主導者となって開発にあたり、天保6年（1835）一村として独立しました。五日市街道、玉川上水、千川用水とそこに架かる水車が2箇所、阿波洲神社が描かれています。

# イベント報告

平成28年度におこなわれた3つのイベントの様子をお知らせします。

## 『平家物語』の世界 ～切絵作品とともに鑑賞する～ 平成29年3月5日 柳沢公民館にて

市内在住の切り絵作家である小出菟<sup>こいでしゅう</sup>さんの作品「平家物語絵巻」完成の情報を得て、さっそく図書館で作品展を開催しました。午前中の短い時間でしたが、市外からもたくさんの方がいらっしやいました。午後は、小出さんには、切り絵作品にける想いをうかがい、その後、市内在住の国文学者、東京学芸大学教授である石井正己<sup>いししいまさ</sup>さんに「平家物語」の解説とともに、現代に生きてこの作品に触れる私たちへの鑑賞のポイントをご講演いただきました。最後はお二人一緒に、熱心な参加者からの質問にもお答えくださり、和やかな講演会となりました。



## あわなおこ 安房直子さんの世界を語る ～朗読と講演～ 平成29年3月25日 保谷駅前公民館にて

まず、市内で現在活動中のサークル(安房直子倶楽部)メンバーによる朗読を通して西東京市ゆかりの児童文学作家である安房直子さんの世界に触れました。その後に、臨床心理士、アートセラピストであり、同人誌「海賊」で安房さんと共に活動した蓮見けいさんには、安房さんの作品をユング心理学を通じた視点で解説していただきました。

## 「英語・中国語・韓国語できく いろんなことばでたのしむ おはなし会」 平成29年3月24日 中央図書館にて

日本語以外を母語とされている方に「図書館を知って、使って、活用していただく」きっかけとして、多文化おはなし会を開催しました。

今回は初の試みとして、英語・中国語・韓国語を母語とされている3名の方に日本で人気のある絵本を自国の言語で読んでいただきました。

おはなし会には老若男女問わずそれぞれの国の方、親子連れなど、たくさんの方にご参加いただきました。初めて聞く言語でもその言葉が持つ響きやリズムで、



子どもも大人も魅了され聞き入っていました。終了後、初対面の参加者同士が講師もまじえてハングルで話されたり、子どもから中国語で絵本を読んで欲しいという要望が寄せられました。

# 小さなアーティスト



「芝久保小学校と春」  
芝久保小学校 6年



「芝久保小学校の春」  
芝久保小学校 6年

私の実家(北海道苫小牧市)には冷房器具というものがなかった。クーラーはもちろん、扇風機もなかった。家が貧しかったから、というわけでもない。隣近所、ほとんどの家で冷房器具は置いていなかったのだ。

これは夏でも涼しい土地柄のためである。暑さのせいで、黙って座っていても汗が流れることを上京して初めて経験した。

そうした習癖というか記憶のためか、東京で暮らすようになって、長いこと冷房器具を買うことがなかった。いや、暑いことは暑いのだ。しかし、扇風機などで涼むということになじめなかったのである。

貧乏学生のころは、だから図書館に行って閲覧室で涼をとるのが日課になっていた。

当然、引っ越すときの部屋捜しのポイントは図書館が近いことにあった。文京区千駄木にいたころは、鷗外記念図書館(現在は分離して本郷図書館になっている)が根城だったし、新宿区下落合に住んでいたころは新宿中

央図書館(こちらに移転する前)がホームグラウンドだった。いずれも借りていた部屋から歩いて五分ほどのところに位置していた。

長時間図書館にいたからといって、重厚本は読んでいない。娯楽小説が大半を占めていて、ある時期からはノンフィクションが増えていく。棚に並んでいたノンフィクションの名作をずいぶんと読み進めていった。

これは、私が就職をせず、ルポライターとして食べていこうと決めたからである。そうした図書館の本が道標となってくれたおかげで、「書く」という仕事に足を踏み出せたともいえるのだ。

その後、国立国会図書館と大宅壮一文庫には数え切れないほど通った。いつも、そこが取材のスタートラインであった。

インターネットの普及以降、スタート地点として図書館に通う機会は減った。しかし、図書館に足を運び、資料を探すときの「ときめき」はいまでも経験する。あの「ときめき」だけは失くしたくないものである。

利用者エッセイ  
わたしと  
図書館  
やまむらもと き  
山村基毅